

# 主体的な学びの実現を目指すeポートフォリオと学生IR

## － 学生によるパネル・ディスカッションを中心に －

横浜国立大学

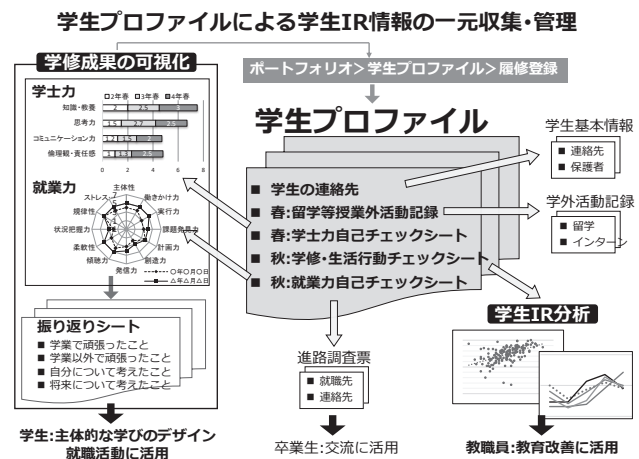
大学院教育強化推進センター 市村光之

学生発表者：市川結貴・及川佳純・里井あこ・竹内達也・中嶋晃・中野基生

### 1 学修成果を可視化する取組の概要

横浜国立大学では、AP事業・テーマIIの取組として、授業設計方法と成績評価の改善、学士力と就業力の可視化、および学生が主体的に学びをデザインするツールとしてのeポートフォリオの再構築を進めてきた。2018年度よりYNU学生ポートフォリオに「学生プロフィール」機能を本格導入し、半期ごとに全学生が入力する仕組みを実現した。これにより学生は、学修成果を学士力と就業力の両面で可視化できるようになった。

加えて本事業と連動しつつ、入口から出口まで、さらに卒業後を含む質保証の伴った大学教育を実現するための仕組み作りとして、学生にフォーカスした本学独自の「学生IR」体制の構築を進めてきた。これにより、学生の動向を踏まえ教職員が教育課題について議論するための基礎データを共有できるようになった。



### 2 学生の《主体的な学びのデザイン》実現の課題

学修成果を可視化する目的は、学生の能力・成果の評価ではなく、学生自身が自分の強み/弱みを自覚し、学生生活を通じた気づきや課題を言語化することにより、主体的な学びの姿勢を醸成することにある。そのツールが、本学が目指すポートフォリオである。そうした学びの主体性の獲得こそが、社会が求める就業力の礎となり、さまざまな社会課題に立ち向かえる人材の要件と考える。

では、新しいYNU学生ポートフォリオを、学生たちはどのように受け止めたのか。学生は毎学期の履修登録の際、学生プロフィールの入力を済ませないと履修登録画面に進めない。このような形で学生に入力を強制することが、主体的な学びに結びつくのか。学生にとって役立つツールにするために、何が求められるのか。本格導入から2年目の今、入力内容の信頼度、学生への活用法の周知徹底、ポートフォリオの教員への開示の是非など、運用上の課題が見えてきた。これらの主要課題を学生たちの率直な意見を交え確認し、今後の方向性を探るのが本発表の趣旨である。

(参考文献：「主体的な学びの実現を目指す学生IRと学修成果の可視化」市村光之

京都大学高等教育研究 第25号 (2019) P63-66、京都大学高等教育研究開発推進センター)

### 3 本発表では

本発表では、再構築したYNU学生ポートフォリオの仕組み、および活用促進に向けての主要課題と改善の取り組みについて担当教員より紹介する。続いて、6名の学生によるパネル・ディスカッション形式でポートフォリオを使う学生たちの本音を聞き、ポートフォリオ活用の方策を議論する。

- 実際、YNU学生ポートフォリオを使ってどうだったか
- そもそも、学生にとって《主体的な学び》とは
- ポートフォリオを主体的な学びにつなげるには